

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652134

研究課題名(和文) すべての学級担任が外国語活動を指導できる小学校教員養成カリキュラムの開発

研究課題名(英文) The Development of Preservice Teacher Education Curriculum to Teach Foreign Language Activities in Elementary School Classrooms

研究代表者

高橋 渉 (TAKAHASHI, Wataru)

信州大学・教育学部・教授

研究者番号：50154886

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、すべての学級担任が外国語活動を指導できる小学校教員養成カリキュラムを開発することであった。教育実習における小学校外国語活動の指導の実際を取材し、附属学校園における小学校外国語活動の指導の状況を検討し、教育実習生が有する小学校外国語活動におけるICT活用に関する認識を調査した結果、小学校外国語活動を児童として実際に受けた経験がなく、ICT活用授業のイメージも持っていないため、ICTを活用した小学校外国語活動を構想しにくく、教育実習前に小学校外国語活動を参観したりICTを活用した他教科・領域の授業参観を行うことが望ましいことが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study proposed a preservice teacher education curriculum which trains classroom teachers to conduct Foreign Language Activities in elementary schools. We visited demonstration elementary schools to observe Foreign Language Activities conducted by student teachers. This study investigated what student teachers' ambitions were for the use of ICT in Foreign Language Activities in elementary schools. The results indicated that student teachers who had no experience with Foreign Language Activities and had no concrete image for activities with ICT tend to have undeveloped ideas or irrelevant ideas about how to plan Foreign Language Activities with ICT. Furthermore, we suggested that prospective teachers should observe Foreign Language Activities with ICT and visit technology-rich classrooms in advance of their student teaching in the teacher preparation programs.

研究分野：英語学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：小学校外国語活動 英語科教育学 英語学 英米文学 異文化間コミュニケーション ICT 教員養成
教師教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ

小学校学習指導要領の改訂により、小学校第5・6学年に週1時間の「外国語活動」が新設された。教育課程上は教科として位置づけられていない外国語活動ではあるが、総合的な学習の時間における国際理解教育とは異なり、学級担任の指導によって「コミュニケーション能力の素地」を育成することが求められている。文部科学省の研究指定校や都道府県の教育センター等において、学級担任の指導による外国語活動の取組が提案されてきてはいるものの、小学校外国語活動の指導に関する内容は現在の教員養成カリキュラムに位置づけられていない、緊急の課題である。

(2) 応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯

本研究は、研究代表者(高橋)及び研究分担者(酒井)が中心となって企画した平成19年度「英語指導力開発ワークショップ」の成果を踏まえている。同ワークショップでは、地域における英語教育の中心的な推進者の育成を図るため、英語教材分析力・コミュニケーション力・ICT活用指導力の開発を基礎として、グループ受講体制をとりながら英語指導能力を開発することを目的とした。受講者の多くは中学校英語科教諭であったが、長野県では小学校・中学校間の人事異動が行われるため、これらの中学校教諭でさえ小学校に異動した時の外国語活動の指導について不安を抱いていることがわかり、小学校教員養成カリキュラム改善の必要性が明らかになった。

(3) これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容

本学部では、大学院GP(H19~21)「授業研究アリーナで共創する臨床的知・教科専門と教科教育のチーム指導体制で高める現職教員の教科指導力」の採択により、教科専門教員と教科教育教員によるチーム指導体制の構築を通して、専門教科の学問的知識に裏打ちされた授業研究を通じてのアクション・リサーチができる現職教員の授業展開力の向上を行ってきた。そこで、小学校外国語活動に関しても、英語科の教科専門教員と教科教育教員が連携・協働することによって、教職志望学生の小学校外国語活動指導力を一層向上できると考えられる。

(4) 本研究が、どのような点で斬新なアイデアやチャレンジ性を有しているか

小学校外国語活動の指導ができる学級担任を養成する点

平成20年3月に公示された新しい小学校学習指導要領では、第5・6学年に「外国語活動」が新設(年間各35単位時間)され、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図るための内容と日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深

めるための内容を扱うこととなった。また、新しい中学校学習指導要領「外国語」では、小学校における英語活動ではくまれた素地の上に「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成することとし、言語活動の充実を通じて言語材料の定着を図るとともにコミュニケーション能力の一層の育成を目指すこととなった。しかしながら、このような小中接続・中高接続に配慮しながら新学習指導要領に対応した外国語指導のできる教員養成は十分ではなく、大学では新たな体制を構築する必要がある。このことは、文部科学省「英語教育改革総合プラン」においても、「小学校教員養成課程における外国語活動養成講座の開発がアウトプットとして見込まれる」と指摘されていることと合致している。本研究は、小学校教員養成カリキュラム改革の契機となる。

英語の教科専門教員が外国語活動を指導できる小学校教員養成カリキュラムを開発する点

教職課程では、教員免許状取得に必要な教科に関する科目と教職に関する科目を履修させるために、各教員が個別に担当科目の目標と内容を設定して、講義・演習を行ってきた。しかし、教職志望学生がこれらの知識と技能を統合する場合は「教育実習」しか用意されてきていなかった。しかも、小学校外国語活動については、英語教育を専攻する学生が選択科目として履修するにすぎなかった。そこで、教科専門領域と教科教育領域の知識と技能を統合して小学校外国語活動の授業を展開できるように、教科の専門性を授業実践につなげるための仕組みとしての「協働的授業研究モデル」を活用することが必要である。このことにより、英語学や英米文学を専門とする教科専門教員と英語科教育学を専門とする教科教育教員が協働しながら、小学校教員養成カリキュラムを開発することが可能になる。

(5) 本研究が、どのような新しい原理の発展や斬新な着想や方法論の提案を行うものであるか

「授業研究アリーナ」モデルによる協働的授業研究モデルを適用する点

上記(3)に記載の大学院GPの目的は、1)専門教科の学問的知識に裏打ちされた授業研究を通じて、アクション・リサーチができる現職教員の授業展開力を向上させること、2)そのための体制づくりとして、教科専門教員と教科教育教員、さらには教育科学教員のチーム指導体制を構築すること、という2点であった。複数の教員によるチーム指導体制は、「授業研究アリーナ」と名付けられている。授業研究アリーナは、教科専門教員の「理論知」、教科教育教員の「実践知」、現職教員の「経験知」を交流させることによって、新たな「臨床

の知」を創出することを目的とするものである。より具体的には、1) 授業の設計、2) 授業の実施、3) 授業の省察の各段階において、教科専門教員は、その教科の基盤となる学問領域の基本概念・方法の観点から、教科教育教員は、教科の目的論、内容・方法論、教材論の観点から、現職教員の授業研究を支援・指導することが期待されている。

この協働的授業研究モデルを、外国語活動を指導できる小学校教員養成カリキュラム開発に適用する。このことは、学生や現職教員を指導する際に協働的なチーム指導を行うことにとどまらず、教員養成カリキュラム開発に際しても、このモデルが適用可能なことを示すことになる。

(6) 本研究が成功した場合に、どのような卓越した成果が期待できるか

小学校外国語活動に適する教材の要件を提案する点

これまで、小学校「総合的な学習の時間」における国際理解教育に対応した教材が教科書会社や教材業者により開発・販売されてきた。しかしながら、その学問的背景（英語学、英米文学、第二言語習得理論等）に裏打ちされているかは保障されていなかった。本研究により、英語学や英米文学を専門とする教科専門教員が小学校外国語活動用教材を分析・検討することにより、小学校外国語活動に適する教材の要件を専門的見地から提案することができる。小学校外国語活動の効果的な指導法を提案する点

平成 21 年度補正予算では、経済危機対策の一環で、学校施設における耐震化・エコ化・ICT 化を推進する「スクール・ニューディール構想」が盛り込まれた。学校 ICT 環境整備事業として、全テレビが地上デジタル放送に対応し、電子黒板が一斉に導入された。しかしながら、子どもの学びを広げ深めるように電子黒板が活用されているとは言い難い。そこで、本研究では、小学校外国語活動の指導に ICT を活用することによって、すべての教科・領域においても、子どもの学びを広げ深めることができるような ICT 活用ができる教員を輩出できるようになる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、すべての学級担任が外国語活動を指導できる小学校教員養成カリキュラムを開発することである。そこで本研究では具体的に次の 3 点について明らかにする。

- (1) 小学校外国語活動を指導できるようになるには、教員養成段階で何を学ぶ必要があるか：小学校外国語活動を指導するために必要な資質・能力とその育成手順を明らかにする。
- (2) 小学校外国語活動ではどのような教材が

開発されて用いられているか：電子教科書や音声教材等の市販教材を分析し、小学校外国語活動教材の要件を明らかにする。

- (3) 小学校外国語活動ではどのような指導法が効果的か。：ICT（電子黒板や e ポートフォリオ）活用や ALT との連携等の効果的な指導法を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 小学校外国語活動用教材の収集と分析

小学校外国語活動教材の要件を明らかにするために、現在市販されている小学校外国語活動用教材（電子教科書、補助教材、CD、DVD 等）を収集し分析する。

(2) ICT 利用による指導方法の検討

電子黒板や e ポートフォリオを中心に、ICT を活用した小学校外国語活動の実践事例を収集し、効果的な ICT 活用による指導方法を検討する。

(3) 国内外の教師教育に関する資料収集・分析

日本や諸外国における小学校外国語活動に関する文献・資料を収集・分析する。分析にあたっては、本研究の目的に対応して、小学校外国語活動指導に必要な資質・能力、小学校外国語活動用教材のあり方、小学校外国語活動の指導法のあり方、の 3 点を視点に分析する。

(4) 教員養成カリキュラム改革に向けた提案

上記(1)～(3)の成果に基づいて、小学校教員養成のためのカリキュラム改革を提案する。

(5) 国内外の学会における情報収集と研究成果発表による意見交換

国内学会や国際学会に参加し、日本国内及び諸外国の教師教育研究者及び外国語教育研究者との交流を通して情報収集を進めることと合わせて、これまでの成果を発表して意見交換する。

4. 研究成果

- (1) 小学校外国語活動用教材及び関連資料の収集を行った。また、小学校外国語活動の指導に関する文献・資料の収集及び小学校外国語活動に関する研究動向の調査も行った。その結果、教員養成課程で利用可能な小学校外国語活動指導者養成向けの教科書も作成されており、それを活用した講義も開講されていることがわかった。

- (2) ICT 利用による指導方法の検討するために、小学校外国語活動を含む各教科・領域における ICT 活用教育に関する文献・資料の収集及び電子黒板やタブレット PC 等を活用した実践事例を収集した。その結果、次の点が明らかになった。

ICT を活用した教材および電子黒板やタブレット PC 等の ICT 活用による指導法に関連する文献・資料収集を行った結果、総務省「フューチャースクール推進

事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」や各地方自治体においてICTを導入する動きとそのための教員養成・教員研修に関する取り組みが多く行われて広まってきていることがわかった。そして、全国10小学校においてICTを活用した協働教育の調査研究が進行しており、その成果によりまとめられた「教育分野におけるICT利活用推進のための情報通信技術面に関するガイドライン」に基づいて、小学校外国語活動指導に必要な資質・能力の検討を行えることがわかった。

最新のICTを活用した授業設計・教材設計やICTを活用して指導する教員が身につけるべき能力に関連する文献・資料収集を行った結果、ICTを活用した授業を設計・実施できるようになることが、第2期教育振興基本計画において重視されている「自立、協働、創造に向けた一人一人の主体的な学び」の実現に繋がることがわかった。

- (3) 教育実習における小学校外国語活動の指導の実際を取材し、附属学校園における小学校外国語活動の指導の状況を検討した。そして、教育実習生が有する小学校外国語活動におけるICT活用に関する認識を調査した。その結果、小学校外国語活動を児童として実際に受けた経験がなく、ICT活用授業のイメージも持っていないため、ICTを活用した小学校外国語活動を構想しにくく、教育実習前に小学校外国語活動を参観したりICTを活用した他教科・領域の授業参観を行うことが望ましいことがわかった。
- (4) ICT活用教育に関する教育実習生の意識を調査した。ICTを活用してどのような知識やスキルを指導したいのかを尋ねた結果、ICTに対して過度の期待を抱いている学生、ICTを活用した指導の具体的なビジョンを抱いていない学生、あるいは、タブレットPCやインターネット等のハードウェアにしか注目していない学生がいることがわかった。教員養成段階では、ICTを実際に活用している授業を参観することや、ICT活用の効果について理解した上で教育実習でICTを活用した授業を立案・実施する機会を設けることの必要性が示唆された。
- (5) 研究成果を、E-Learn(World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Health Care, & Higher Education)において研究発表し、関連分野の研究者との交流を通して情報収集・意見交換を行った。詳細は、「5. 主な発表論文等」に示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Mai Osawa(大澤舞)・Mitsunori Yatsuka(谷塚光典)、Student Teachers Lesson Ideas with ICT in Elementary Schools Before Their Student Teaching, Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2013, 2013, 1271-1276、査読無(発表は審査有)

<http://editlib.org/p/115054>

谷塚光典、信州大学におけるeポートフォリオの運用と工夫 - 自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して -、Synapse, 23, 2013, 12-15、査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019863709>

Mai Osawa(大澤舞)・Hideki Sakai(酒井英樹)・Wataru Takahashi(高橋渉)・Mitsunori Yatsuka(谷塚光典)、Student Teachers' Ambition for ICT Use to Teach Foreign Language Activities in Elementary Schools, Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Health Care, and Higher Education 2012, 2012, 1210-1215、査読無(発表は審査有)

<http://www.editlib.org/p/41764>

酒井英樹・和田順一、中学校英語教科書のジャンル・テキストタイプ分析、JALT journal, 34(2), 2012, 209-238、査読有
http://jalt-publications.org/files/pdf-article/jj2012b_art4.pdf

Mai Osawa(大澤舞)・Hideki Sakai(酒井英樹)・Wataru Takahashi(高橋渉)・Mitsunori Yatsuka(谷塚光典)、ICT Application Skills and Linguistic Knowledge for Class Observation of Foreign Language Activities in Elementary Schools, Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Health Care, and Higher Education 2011, 2011, 2051-2056、査読無(発表は審査有)

<http://www.editlib.org/p/39028/>

[学会発表](計3件)

Mai Osawa(大澤舞)・Mitsunori Yatsuka(谷塚光典)、Student Teachers Lesson Ideas with ICT in Elementary Schools Before Their Student Teaching, E-Learn 2013: 18th World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Health Care, & Higher Education, 2013年10月21日~2013年10月24日、アメリカ合衆国・ネバダ州ラスベガス

Mai Osawa(大澤舞)・Hideki Sakai(酒井英樹)・Wataru Takahashi(高橋渉)・Mitsunori Yatsuka(谷塚光典)、Student

Teachers' Ambition for ICT Use to
Teach Foreign Language Activities in
Elementary Schools、E-Learn 2012:
17th World Conference on E-Learning
in Corporate, Government, Health Care,
& Higher Education、2012年10月9日
~2012年10月12日、カナダ・ケベック
州モンリオール

Mai Osawa (大澤舞)・Hideki Sakai (酒井英樹)・Wataru Takahashi (高橋渉)・Mitsunori Yatsuka (谷塚光典)、ICT
Application Skills and Linguistic
Knowledge for Class Observation of
Foreign Language Activities in
Elementary Schools、E-Learn 2011:
16th World Conference on E-Learning
in Corporate, Government, Health Care,
& Higher Education、2011年10月17
日~2011年10月21日、アメリカ合衆
国・ハワイ州ホノルル

〔図書〕(計1件)

渡邊時夫・高梨庸雄・齋藤榮二・酒井英
樹、三省堂、小中連携を意識した中学校
英語の改善、2013、208

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 渉 (TAKAHASHI, Wataru)
信州大学・教育学部・教授
研究者番号：50154886

(2) 研究分担者

酒井 英樹 (SAKAI, Hideki)
信州大学・教育学部・教授
研究者番号：00334699

谷塚 光典 (YATSUKA, Mitsunori)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号：00334699

金子 史彦 (KANEKO, Fumihiko)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号：70402097

田中 江扶 (TANAKA, Kousuke)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号：40524294

小池 浩子 (KOIKE, Hiroko)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号：70303469